

LOBO 調査

早期景気観測

2月 日商調査日 2月6日～16日
当所調査日 2月6日～21日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
2月の全産業DI ▲12・9
(前月比 ▲1・5ポイント)

○中小企業の景況感

小売業は、消費者の買い控えは継続するものの、好調な百貨店がけん引し、改善した。サービス業は、飲食・宿泊業を中心にインバウンド回復の恩恵を受けるも、人手不足やコスト増が下押しし、ほぼ横ばいとなった。建設業は、公共工事が増えるも、資材価格の高止まりなどで力強さを欠いた。また、製造業は、企業のコスト負担増による設備投資の足踏みを受け、機械器具関係などの需要減で悪化し、卸売業でも、これらの需要減による取引減少で悪化した。物価が高止まりする中、円安や人材確保に向けた賃上げなど、コスト増が重荷となっている。深刻な人手不足や価格転嫁などの構造的な課題も山積しており、中小企業の業況は悪化が続いた。

○先行き

先行き見通しDIは ▲13・6

(2月比 ▲0・7ポイント)

新年度を見据えた人流の増加による

個人消費の拡大や、企業の新たな設備投資などの取組みへの期待感がうかがえる。一方、深刻な人手不足による受注機会の損失や、長引く物価高による買い控への継続など、国内需要の停滞が懸念される。コスト増が継続する中、持続的な賃上げに向けた労務費を含む価格転嫁の推進や生産性向上、人材確保などの対応すべき課題が多く、先行きは慎重な見方となっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

コスト増の影響で市場の動きが鈍い中、取引先が年度末の在庫調整に入り、受注数が大幅に減少している。コロナ禍からの挽回生産で生産量を増加させていたが、想定よりも売れ行きが良くなく、在庫過剰な状態である（金属加工機械器具製造業）。

物価高で消費者に購買意欲が無い中、電気代などのコスト増が重荷である。今後、輸送費も上昇するため、一層苦しい状況が見込まれる（酒類小売業）。

当所調査

「売上前年を中心に、全体的に景況感悪化」

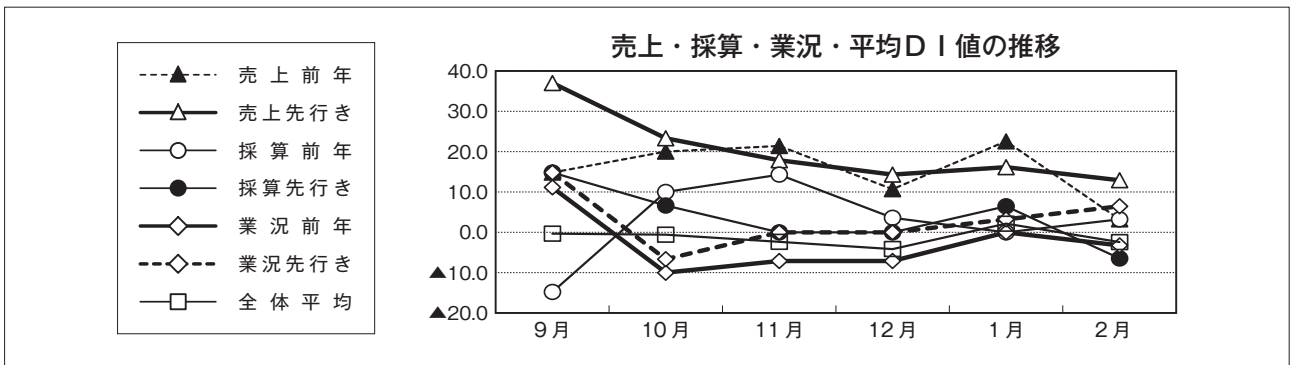
全体平均DIは ▲2・4で前月に比べ ▲4・6ポイントの悪化。項目別では、売上前年 ▲19・4ポイントの悪化、社員先行き ▲12・9ポイントの悪化が見られた。コメントには「退職者などが続き、人手不足である。売上アップのためには従業員確保が必須である」（その他の老人福祉・介護事業）や「最低賃金、各種資材・仕入値の上昇により厳しい状況である」（金物卸売業）といった、人手不足や資材などの価格高騰による影響が伺えた。

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(全産業)

(サンプル数40社)

項目	令和5年					令和6年	
	2月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
売上前年	11.1	14.8	20.0	21.4	10.7	22.6	3.2
売上先行き	▲11.1	37.0	23.3	17.9	14.3	16.1	12.9
採算前年	▲11.1	▲14.8	10.0	14.3	3.6	0.0	3.2
採算先行き	▲25.9	14.8	6.7	0.0	0.0	6.5	▲6.5
仕入前年	▲66.7	▲74.1	▲66.7	▲67.9	▲71.4	▲61.3	▲64.5
仕入先行き	▲63.0	▲66.7	▲60.0	▲67.9	▲53.6	▲54.8	▲45.2
社員前年	18.5	22.2	23.3	28.6	32.1	38.7	29.0
社員先行き	18.5	29.6	33.3	28.6	25.0	38.7	25.8
業況前年	▲14.8	11.1	▲10.0	▲7.1	▲7.1	0.0	▲3.2
業況先行き	▲11.1	14.8	▲6.7	0.0	0.0	3.2	6.5
資金前年	▲14.8	▲3.7	16.7	3.6	3.6	9.7	▲3.2
資金先行き	▲11.1	11.1	3.3	0.0	▲7.1	6.5	12.9
全体平均	▲15.1	▲0.3	▲0.6	▲2.4	▲4.2	2.2	▲2.4



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。